

オンライン講演会

「アイヌ民族の伝統的死生観」

本田 優子 氏

(札幌大学教授、(一社)札幌大学ウレシパクラブ代表理事、
札幌大学アイヌ文化教育研究センター長)

11月8日(土)午後2時～3時半

定員 500人(会員・非会員を問わず無料)

形式：オンライン (ZOOM)

主催 **日本尊厳死協会北海道支部**

申し込み： 北海道支部ホームページ(前日まで)

<https://songenshi-kyokai.or.jp/hokkaido/>

講演概要

アイヌの伝統的世界観の根幹はアイヌ(人間)とカムイ(神)との関係性にあります。ここでいうカムイとは一神教の神ではなく人間の周囲環境総体を指し、それら全てに魂が宿ると考えられてきました。

礼節を持ってカムイとの関係を築いてきた人間は、葬送儀礼の後、先祖の世界に向かいます。

アイヌの理想とする死に方は、「枯れ木が音もなく倒れるように」と表現され、私の恩師・萱野茂氏(1926～2006)は常々、「寝たきり状態で何本もの管に繋がれながら死ぬのは人間の死に方ではない」と語られました。

日本古来の考え方も参照しつつ、アイヌの伝統的死生観や葬送儀礼についてご紹介し、「人間らしい死」について考える機会にしたいと思います。